

栃木

宇都宮総局

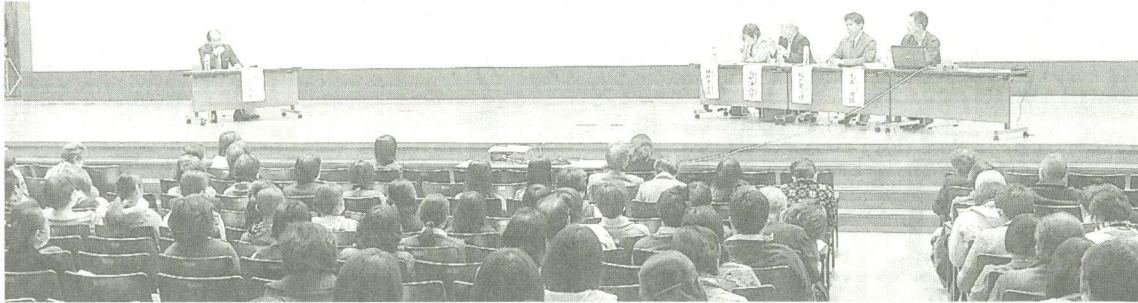
〒320-0033

宇都宮市本町10-10

☎ 028-622-1761

fax 028-622-1764

mail utsunomiya@esahi.com



多くの参加者がシンポジウムの議論に耳を傾けていた13日、下野市の自治医科大学

同ネットワークは在宅ケアに熱心な医師が中心となり、他職種間の顔が見える

あり方を議論した。在宅医療に関する医療・福祉関係者らがつくる「在宅ケアネットワーク栃木」は13日、下野市の自治医科大学・地域医療情報研修センターで20回目の総会を開いた。この日のテーマは「2035年の地域包括ケア」。医療・福祉関係者など約500人が集まり、団塊ジュニアが高齢者にさしかかる20年後の在宅ケアのあり方を議論した。

ネットワーク栃木、20回目の総会

20年後の在宅ケア 助け合いが重要

連携を進めるために1996年6月に立ち上げた。97年に第1回の総会があり、その後、毎年総会が開かれている。

大会長を務めた医療法人アスムスの太田秀樹理事長は講演で「この20年間で高齢者は倍に増えた。今後、1年で小さい県が丸ごと消えるぐらいの規模で人口が減る時代が訪れる」と指摘

した。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、県の人口は現在の約197万人から2035年に約172万人まで減る。65歳以上の高齢者は約58万人で高齢化率は33・7%に達する。

シンポジウムでは、滋賀県東近江市の永源寺地域で在宅診療をする医師の花戸貴司さんが医療や介護の公的なサービスだけではなく住民同士の普段からの助け合いの重要性を強調した。永源寺地域の高齢化率は約30%で、2035年の県の状況に近い。花戸さんは「何かあったときに相談できる仕組みが地域にあれば過疎になっても支えていける」と話した。(小泉浩樹)